

作成日：西暦 2026 年 1 月 12 日

2015 年 1 月から 2025 年 12 月に産業医科大学病院にて急性胆嚢炎と  
診断された患者さんへのお知らせ

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた情報の記録に基づき実施する研究です。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（令和 3 年 3 月 23 日制定 令和 3 年 6 月 30 日施行）」により、対象となる患者さんのお一人おひとりから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開するとともに、参加拒否の機会を保障することとされています。この研究に関するお問い合わせ、また、ご自身の診療情報が利用されることを了解されない場合は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。

1. 研究課題名

急性胆嚢炎に対する経皮経肝胆嚢吸引穿刺法の治療奏功に寄与する因子の検討

2. 研究期間

研究機関の長の許可日～2029 年 3 月 31 日

3. 研究機関

産業医科大学

4. 研究責任者

産業医科大学医学部第 3 内科学 学内講師 大江晋司

5. 研究の目的と意義

急性胆嚢炎の治療法は、手術治療（胆嚢摘出術）、胆嚢ドレナージ、保存的治療があります。また、胆嚢ドレナージの方法にも経皮経肝胆嚢ドレナージ（PTGBD）、経皮経肝胆嚢吸引穿刺法（PTGBA）、内視鏡下胆嚢ドレナージなどがあります。それぞれの治療には利点や欠点があり、それぞれの患者さんに適すると考えられる治療法を選択しています。例えば、手術治療（胆嚢摘出術）は急性胆嚢炎の治療とともに今後の再発を予防することができますが、侵襲性が高い治療であり、緊急手術は合併症のリスクも伴います。胆嚢ドレナージ法の種類にも、合併症や治療成功率、ドレナージチューブによる患者さんのストレスなどに違いがあります。保存的治療は絶食と抗生薬で治療を行うことですが、十分に急性胆嚢炎が改善しない患者さんも多くおられます。急性胆嚢炎の重症度、患者さんが手術に耐えられるか、内服薬などを総合的に考慮して治療法を選択しています。

## [目的]

急性胆嚢炎の中でも特に手術治療が難しい患者さんに対する治療法として、どのような患者さんにどのドレナージ方法が適切であるか、もしくはドレナージを行わずに保存的加療で改善するかについては十分に明らかではありません。それぞれの治療が効果的であった患者さんの特徴を調べることで、適切な治療法を選択することを目的としています。

## [意義]

この研究を行うことで、将来同じような急性胆嚢炎の患者さんにおいて必要最小限の負担で急性胆嚢炎を改善させることに役立つと考えられます。

## 6. 研究の方法

急性胆嚢炎に対して PTGBA で治療を行った患者さんの中に、PTGBA 後にそのまま改善する患者さんとさらに追加でドレナージや手術が必要になる患者さんがおられます。改善する患者さんと追加治療が必要な患者さんの間にどのような違いがあるのかを血液検査や画像検査の結果を用いて検討します。

収集する情報：年齢、性別、身長、体重、基礎疾患、血液検査、細菌検査、画像検査、治療法、入院経過

## 7. 個人情報の取り扱い

個人情報は、カルテの整理簿から、住所、氏名、生年月日を削り、代わりに新しく符号をつけ、研究責任者が管理し、個人情報の漏洩を防止します。この研究で得られたデータは、論文等の発表後 10 年間保管します。保管期間終了後、情報は復元できない方法で消去・廃棄することで、個人情報が外部に漏れないように対処します。この研究への参加の拒否は自由です。拒否された場合は、その時点までに得られたデータを、同様の措置で廃棄します。研究への参加を拒否される場合は、下記問い合わせ先にご連絡ください。この研究から対象外とさせていただきます。

## 8. 問い合わせ先

産業医科大学医学部第 3 内科学講座 学内講師 大江晋司  
福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1 電話番号 093-603-1611

## 9. その他

研究への参加に対する直接的な利益はありません。また、費用の負担や謝礼もありません。この研究は、本学講座研究費により行われ、一切の利益相反はなく、産業医科大学利益相反委員会の承認を得ており、公正性を保ちます。